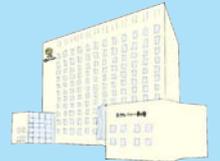


情報文化 学生瓦版

2016年8月25日
長崎研修2016
②市役所訪問の巻

発行 情報文化学科
編集長 鹿角 クンチ
顧問 神部 コッコデシヨ
山口 ジャオドリ
学生 富田 トウセンマツリ
高橋 ホンオドリ
澤登 タカラブネ
小倉 カワフネ

快適な旅を
ホテルニュー長崎



訪問 長崎市長と意見交換会

長崎研修2日目の8月16日、田上市長と江戸川大学生が意見交換会を行った。ちゃんぽんを食べ、長崎の街、歴史、平和について学んだ。2面



長崎市長からつなぐ交流のバトン 〜観光と人のあたたかさで栄える街へ〜

長崎研修2日目となる8月16日、今年も長崎市役所を訪問する機会を頂いた。これは、この研修の大きな目玉行事の一つである。今回は、田上富久長崎市長と文化観光部の股張一男次長が出席して下さり、意見交換会が行われた。初めに田上市長から歓迎のお言葉を頂き、長崎の歴史についてのお話を伺った。その後、神部先生と山口先生から長崎研修にかける思い、意気込みについてのお話があった。

続き、昼食に「長崎ちゃんぽんとチャールズ」を頂いた後、対談の時間となった。学生からの質問に、田上市長と股張次長は丁寧に答えて下さった。その中で、市長がこれまでに取り組まれた仕事として、「まちづくりプロジェクト」についてのお話があった。このプロジェクトは、個性ある長崎の街が、さらに魅力的になるよう様々なことにチャレンジするものだ。実際、長崎の街を歩いてわかったが、和（日本）・華（中国）・蘭（オランダ）等、街に根付いたものがあり、行く場所によってその雰囲気は大きく異なる。その特徴を活かしていくこのプロジェクトのお話は大変印象深かった。さらに、これは「進化するプロジェクト」であり、市役所だけでなく街全体で協力して取り組んでいることが魅力である、とおっしゃっていた。

また、田上市長から、長崎市で外国人を受け入れるための姿勢についてもお話を頂いた。外国人に長崎に移住してもらうために「交流の産業化」を大切にしているとおっしゃっていた。この「交流の産業化」には2つのポイントがある。「顧客の創造」と「価値の創造」である。顧客の創造とは、これまで長崎の街に来ていなかった人を相手にすることであり、価値の創造とは街の魅力を高め、外国人の方でも安心して利用できるよう、サービスの向



上を目指すというものだ。昔から長崎は外国との交流が盛んな地である。その交流を産業としてとらえるこの取り組みは長崎ならではのものだと感じた。さらに、田上市長は、長崎と広島の関係についても言及された。長崎と広島はどちらも原爆の被害にあった場所である。原爆の恐ろしさを長崎は長く伝える、広島は広く伝えると言われているが、田上市長はどちらも必要なことであるととおっしゃっていた。原爆の被害にあった方が、今は80代になっており、実体験を次の世代に伝えられる人がこれから後20年ほどでいなくなってしまうことを問題視されていた。今後どのようにして被害者の声を後世に伝えていくのかを考えていくことが、



田上市長と市役所の方々との記念撮影

長崎の魅力に迫る!の巻

長崎市長と対談させて頂きました。



作：澤登 タカラブネ

田上市長が退室された後、股張次長が長崎市の観光動向と今後の取り組みについて詳細な資料のもと、解説して下さった。世界遺産が多くあり、四季折々のイベントや世界新三大夜景の一つに長崎が選ばれていることなど、長崎には多くの個性的な魅力がある。さらに、日本で唯一西洋への窓口となった出島の存在や、長崎に住む「人」そのものが長崎の強みであるとおっしゃっていた。

(富田 トウセンマツリ)

英語でひとこと 【It is better to give than to receive.】

「受けるより与える方が良い」ということわざである。田上市長は、私達へのメッセージとして一人ひとりが能動的に行動し、協力していくことが大切だとおっしゃった。今の長崎市は、市役所だけでなく、企業や商店、市民の一人ひとりが自分の意見を出し、働きかけていくことで、活性化している伺った。私もこの研修で、主体的に提案すること、行動することの重要性を学んだ。ただ誰かについていくのではなく、みんながお互いに与えるという意識を強く持てば、様々な効果が生まれる。その作用によって、旅は実り豊かになっていったのだ。(小倉 カワフネ)

長声広語

(ちょうせいこうご)

「長崎の街を若い世代にどう伝えていけば良いか」について田上市長は私達に意見を求められた。千葉の大学に通う私達にとってこの研修を通して日常生活とは異なる側面を持つ長崎がどう映っているのか、関心を持っていただけたようだ▼例えば、被爆体験は、長崎と広島だけの話ではなく、日本、世界、人類全てが共有すべきものである。私達が共有すべきものである。私達がある地域だけの話だと考えていては、世界には届かない。現地に足を運び、目で見て、耳で聴いて、肌で感じたことを、あらゆる場所から発信することを重要である▼平和への思いをつないでいくため、私達は長崎の方が築いてこられた街のことを知り、その声に耳を傾けることを続けていく。原爆は、過去のことではなく、現在と未来に突きつけられている課題である▼この夏、長崎で体験したことを家族に友人に、周りの人に自分の言葉で伝えていく。この地で感じた思いを長く広くつないでいきたい。(鹿角 クンチ)

7年に一度の集大成
長崎くんち
7月7、8、9日
に向けて練習開始

世界遺産候補
長崎の教会群とキリスト教関連遺産
～キリシタンと日本の歴史を学ぶ～